



振り返り

企画展 あいちの発掘調査 2023 期間 2024年1月20日(土)~3月10日(日) 場所 あいち朝日遺跡ミュージアム本館・企画展示室

展示の概要

愛知県内では、毎年多くの遺跡で県や 市町村による発掘調査が行われており、 貴重な発見が相次いでいます。第2回目 となる今回の企画展でも、昨年に引き続 き県内各地で行われた最新の発掘調査 の出土品を展示することで、考古学の視 点から県内各地域の歴史を概観できる 内容となりました。

今回紹介した遺跡

今回紹介した遺跡は、朝日遺跡(清須 市・名古屋市西区ほか、弥生時代)をは じめ、扶桑北窯跡(瀬戸市、鎌倉時 代)、天王塚遺跡(小牧市、鎌倉時代~ 江戸時代)、宮後城跡(江南市、鎌倉時 代~江戸時代)、名城公園遺跡(名古屋 市北区、弥生時代~奈良時代・江戸時 代)、熱田B遺跡(名古屋市熱田区、鎌

倉時代)、井ケ谷古窯跡群(刈谷市、平 安時代~鎌倉時代)、池田遺跡(岡崎 市、古墳時代~江戸時代)、中狭間遺跡 (安城市、弥生時代~鎌倉時代)、境 時代)、史跡 三河国分寺跡(豊川市、奈 良時代~平安時代)の11遺跡です。

これらはいずれも、ここ数年内に発掘 調査を実施したか、出土遺物や調査成 果の検討から新たな解釈が導き出され てきた遺跡です。このような発掘調査の 速報展は全国各地の博物館でも行われ ていますが、博物館の所在地や近隣市 町村だけに限らず、県のほぼ全域から広 く出土資料を集め、展示する試みは比 較的珍しいものです。まさに、多くの市 町村にご協力をいただいたからこそ開 催できた展示といえます。

イベントと新しい試み

会期中は各遺跡の調査担当者による

成果報告会や、講演会の開催によって、 遺跡や出土遺物についてより詳しくご紹 介する機会も設けました。また、写真と イラストを使い、発掘現場での調査手順 についてもご紹介しました。この紹介方 法として、パンフレットへの掲載以外に も、今回は面白い試みをしています。本 展の展示解説パネルの下段には、発掘 調査の作業の様子のイラストが11種類 描かれていましたが、実は「はじめに」の パネルから順に見進めていくと、イラス トの内容も作業の時系列順になる、とい う仕掛けがありました。このイラストを 順に並べるとかなりの長さになります が、それも「発掘調査絵巻2023」とし て、本館廊下に横一列に並べた状態で展 示しました。

ピックアップ紹介

どの遺跡も大変貴重なものですが、あ えて詳しく1箇所ご紹介するとすれば、

当館も所蔵するパレス・スタイル土器が出土した、名城公園遺跡でしょうか。この遺跡はその名のとおり、名古屋城のすぐ北に位置する名城公園にあり、県の新体育館の建設工事に入る前に発掘調査が行われました。ここは江戸時代には

「下御深井御庭」と呼ばれる尾張藩の庭園があった場所です。そしてそのさらに下層には、弥生時代後期から奈良時代にかけての遺跡が重なっており、調査によって弥生時代後期~古墳時代前期のパレス・スタイル土器が多数出土しました。このうち1点は"パレス・スタイル"という通称がつけられる元となった、現在東京国立博物館が所蔵する重要文化財のパレス・スタイル壺とそっくりな姿した。東京国立博物館所蔵の壺は、熱田神宮のすぐ北にある高蔵遺跡出土であ

ることから、双方の集落間で人が盛んに 行き来していたのかもしれません。

これからも愛知県内では様々な遺跡で発掘調査が行われ、多くの新たな発見があるはずです。それらの成果を、愛知県の過去から現在までの歴史のつながりを感じられる展示として、今後も当館で紹介し続けていきたいと考えています。

(田中 恵美)



名城公園遺跡出土のパレス・スタイル壺



企画展ポスター



発掘調査絵巻2023(一部)





弥生レラゴくリプロジェワト レボート

体験水田をとおして、弥生時代を体験する「弥生ムラづくりプロジェクト」。 この冬は、土器を制作し、復元した弥生土器で炊飯を行いました。



土器づくり

2023年12月16日(十)

朝日遺跡で出土した土器(甕と壺)を参加者に見てもらった後、粘土のひもを積み上げる"輪積み"の方法で土器づくりを行いました。学芸員の話を聞いて弥生土器がどのようにつくられたかを想像しながら、それぞれの土器を製作しました。



土器焼き

2024年1月28日(日)

12月に制作した土器を焼成しました。土器を稲わらや土で覆う"覆い焼き"で焼いたため、焼き終わるまで土器がどのような状態か見ることができません。焼成後、取り出した土器がほとんど割れていないのを確認した時は、一同ホッと一安心しました。



土器炊飯

2024年2月11日(日・祝)

今年度、弥生ムラづくりプロジェクトの参加者を中心に、復元した土器による「土器炊飯」を行いました。弥生時代の人々がどのようなお米をどうやって調理していたのかを考えながら、体験水田で収穫した赤米、あいちのかおりなどのお米を炊き上げました。





シリーズ ミュージアム収蔵品ファイル No.11

粗製剥片石器

前号収蔵品ファイル10では、収穫具の磨製石包丁と大型石包丁を取り上げましたが、朝日遺跡ではこれらの石器はあまり多いとはいえません。かわりに、「粗製が片石器」と呼んでいる簡易な打製石器がたくさん出土しています。この石器は、濃飛流紋岩や砂岩など木曽川流域の河原にある少し扁平な円礫を原材とし、礫の側縁に強い打撃を加え、割り取られた剥片に簡単な加工を施して作られています。剥片の鋭い縁辺がそのまま刃として使われました。

粗製剥片石器の特徴は、刃部の広い範囲にロウを塗ったような光沢がみられる

ことです。この部分を高倍率の金属顕微鏡で拡大すると、光を強く反射する非常になめらかな面が観察されます。これはコーングロスやシックルグロスとよばれる使用痕で、植物珪酸体を多く含むイネなどの草本植物を切断することで生じる特徴的な痕跡です。使用痕からは、大型石包丁と同じように、イネの根株などをまとめて刈り取ったり、除草作業に用いられたりしたと推定されています。

粗製剥片石器と同じような石器は、高知県南国市田村遺跡群、和歌山県御坊市 がただ 堅田遺跡、愛知県一宮市元屋敷遺跡など 弥生時代前期の遺跡から見つかっていま す。弥生時代中期以降には、北陸地方や東北地方など広い範囲に広がっています。地域によっては、板状に節理する安山岩を素材として、同様な機能をもつ石器が作られています。地域によって「横刃形岩器」「有肩扇状石器」「板状石器」など様々な呼称がありますが、磨製の大型石包丁を含む同じ機能の石器を「大型直縁刃石器」と総称し、弥生時代の農耕文化にともなう石器として位置付けられています。

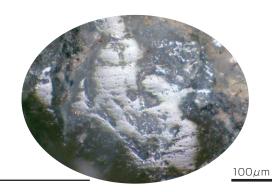
(原田 幹)



朝日遺跡出土の粗製剥片石器(企画展「弥生農耕ことはじめ」から)



粗製剥片石器:朝日遺跡(重要文化財/本館蔵)



粗製剥片石器の使用痕



タカとクロがレポートする 学芸員に聞こう!

ミュージアムの見所 (総集編^{②)} 今回も朝日遺跡に詳しい 学芸員の方に話を聞きました



(大國 摩宝)

これまでミュージアムの屋外の見所をレポートしてきたね。 どんな見所があったのか振り返ってみよう。

かん ごう 環濠

環濠は、集落の周囲に掘られた溝の跡です。高床倉庫の近くにある木の橋の西側の深いところは、発掘調査で発見されたときの形で復元されていますし、東側の道のようにみえるところは、調査で見つかった環濠の場所を表示しています。

環濠は、貝殻山貝塚の高まりを囲むように北の方に続いています。この環濠の

内側が、ムラの人たちが家を建て住んでいた場所になります。つまり環濠は、外敵から自分たちのムラを守るために掘った「堀」の役割をしていました。また、それだけではなく、低い土地にあるムラの排水の役にも立っていたそうです。環濠は、人々の生活を支える大切な施設だったようですね。



復元した環濠の様子



史跡の様子

植栽

屋外には、様々な種類の木が植えられています。ヤマザクラやサトザクラといったサクラの木、ドングリのなるシイやマテバシイ、冬に赤い実をたくさん付けるクロガネモチなどの木があります。2020年のミュージアムの開館前は、338本もの木々が生えていましたが、木が多すぎると、地下の弥生時代の遺跡を木が壊してしまう恐れがあります。そこで、弥生時

代の景観に合わせて樹木を再整備しました。

ここには、弥生時代の人たちの生活を 支えていた木も植えられています。 竪杵 に加工されたヤブツバキや、臼に使われ たクスノキなど、農具の材料となった木 です。ドングリは弥生時代でも食べられ ていたそうです。

■ 方形周溝墓

本館の近くにある小さな墳丘は、方形 周溝墓という弥生時代のお墓を再現した ものです。朝日遺跡では、人の住む場所 は集落の中心部、お墓はその周辺部と はっきりと場所が分けられていました。 朝日遺跡で最初に住んでいた人々のお 墓は、今のところ墓穴だけを掘ったもの しか見つかっていません。方形周溝墓は もう少し後になってからです。 高速道路建設前の調査で大小さまざまな方形周溝墓がみつかり、最大のものは、長辺が約30mもありました。これは、朝日遺跡が巨大集落に発展する頃につくられており、当時の指導者のお墓だったのではないかと考えられています。弥生時代は、身分の差ができ始めた時代であり、お墓の違いもその表れであったのかもしれませんね。



再現した方形周溝墓の様子

ミュージアムの見所を巡ってみよう!



ミュージアムスタッフのこぼれ話

ミュージアムのもうひとつの魅力

当ミュージアムには、本館と北側にある 史跡貝殻山貝塚交流館に図書コーナーが あります。本館の書棚には、愛知県の歴史 や民俗、文化財、自然、観光等に関する郷 土の本や、他の施設で開催された企画展・ 特別展等の展示図録を配架しています。図 録とは、絵や写真が中心となっている図書 で、展示を企画した学芸員のこだわりが感 じられる一冊です。図書は他の施設から寄 贈していただいたものが多く、様々な地域 や時代のものがあります。

また、企画展に併せて関連図書コーナーの設置もしています。今年度、夏は「海や川などに関する本」、秋は「農耕に関する本」、冬は「発掘調査に関する本」でおすすめの図書や、企画展担当学芸員が執筆した図書のラックを作成していました。今後も企画展と併せてお楽しみいただけると嬉しいです。

交流館には、愛知県内で行われた発掘 調査等の報告書を中心に配架しています。 他にも愛知県史や市町村史、事典、専門書、研究論文等があります。本館よりもどちらかというと専門書が多いですね。

現在、ミュージアム内で所蔵している図書は、バックヤードにあるものも合わせて約8,500冊あります。残念ながら、図書館のように貸出等は行ってはいませんが、ミュージアムに滞在して、ゆっくりと本を読んでもらうのは、大歓迎です。ご来館の際には、是非お気に入りの一冊を見つけてみてくださいね。

(大國 磨実)



本館本棚の様子





交流館愛知県史



企画展関連図書コーナー

ショップグッズ薀蓄紹介 【野帳】



野帳 ¥600 (税込)

紹介する「野帳」は、文具メーカーのコクヨから1959年に測量作業用のメモ帳として発売されたもので、60年以上の歴史があるロングセラー商品です。形状はノートですが、品番がノートを示す「ノ」ではなく、製図用品を示す「セ」で始まっています。作業服のポケットに無理なく入る大きさで、屋外でも片手で持って筆記できる堅い表紙と、丈夫な「糸かがり」で綴じられていることが特長です。その使い易さから、高度成長期の建設現

場を支え、やがて発掘調査の必需品ともなりました。

今回用意したのは、この逸品を当ミュージアムでカスタマイズしたオリジナル商品です。中紙は汎用性の高い3mm方眼とし、濃緑色の表紙には、金の箔押でAICHI ASAHI SITE MUSEUMの文字とパレス・スタイルの壺をあしらい、裏表紙に記された品番は勿論「セ-Y3」です。「弥生の御朱印」収集にもピッタリのサイズです。

古代体験プログラムのお知らせ

、主・量・祝徳僧

会場:本館・体験学習室

時間 ↓15:00~(45分

4月 教材費 各回先着 時間 300円 10人 15:00~(45分)

土器文様タイルづくり 弥生土器に施された繊細な文様を

弥生土器に施された繊細な文様を あしらったタイルをつくります。



多月 教材費 各回先着 時間 100円 10人 15:00~(45分

ミニ磨製石器づくり

矢の先に取り付けられるヤジリ(鏃)を つくります。



勾玉・土玉づくり

オーブン陶土で、弥生時代の装飾品「勾玉」「土玉」をつくります。



※2024年4月6日(土)から6月30日(日)までの土・日・祝日に開催(各日1回) ※当日ミュージアム本館窓口にてお申込みください。(事前予約はできません)

12月~2月のできごと

講座

「羊毛フェルトで楽しむ朝日遺跡」

●講師:加藤有理香氏(瀬戸市文化課)●日時:2023年12月17日(日)

●場所: あいち朝日遺跡ミュージアム 本館・研修室

●内容: 朝日遺跡出土の資料の中でも特徴的な「円窓付土器」をモチーフに、ふわふわの羊毛フェルトを「ニードル」という細い針を使ってブローチを



講演会・シンポジウム

作りました。

講演会

「弥生時代水田稲作の器具保有者・作業者・ 産物享受者」

●講師: 山田昌久氏 (東京都立大学大学教育センター特任教授)

●日時: 2023年12月9日(土)

●場所: あいち朝日遺跡ミュージアム 本館・研修室

●内容: 弥生時代の稲作において、器具は誰が保有し、どのような組織

で行われ、収穫物はどのように調製・保管されたのか。また自集団消費的な利用と、地域の首長や大和王権に税を納めるための利用では、技術発揮がどう違うのかをお話しました。



シンポジウム

「弥生時代の収穫・調製技術の再検討」 (共催:水田稲作技術比較研究プロジェクト)

●登壇者: 原田幹(当ミュージアム学芸員)

岡田憲一氏 (奈良県橿原考古学研究所調査第二係長)

那須浩郎氏 (岡山理科大学准教授)

上條信彦氏 (弘前大学人文社会科学部教授)

小林正史氏(金沢大学古代文明·文化資源学研究所客員教授)

村上由美子氏(京都大学総合博物館准教授)

山田昌久氏(東京都立大学大学教育センター特任教授)

白石哲也氏(山形大学学士課程基盤教育院准教授)

●日 時: 2023年12月10日(日)

●場 所: あいち朝日遺跡ミュージアム 本館・研修室

●内 容: 弥生時代の稲作では、コメをどのように収穫し、加工、保管して

いたのでしょうか。

最新の研究成果に基づく 発表と、収穫・調製(脱穀 や籾摺り・精米など)に関 する技術とその問題につ いて討論会を行いました。



発掘調査最新成果報告会 | 「三河の遺跡」

●講師: 村上昇氏(豊橋市文化財センター) 鈴木涼平氏(豊川市教育委員会) 池本正明(愛知県埋蔵文化財センター) 河野あすか氏(刈谷市歴史博物館)

●日時: 2024年1月27日(土)

●場所: あいち朝日遺跡ミュージアム 本館・研修室

●内容: 三河地方の遺跡として、弥生時代後期から古墳時代の集落跡が出土した「境松・若宮遺跡」(豊橋市)、三河国に建立された天平寺院である国指定史跡「三河国分寺跡」(豊川市)、弥生時代から中世

までの複合遺跡である「中狭間遺跡」(安城市)、猿投窯の東端にあたる「井ケ谷古窯跡群」(刈谷市)について、それぞれの発掘調査成果を調査担当者が報告しました。



発掘調査最新成果報告会!!「尾張の遺跡」

●講師:河合君近氏(公益財団法人瀬戸市文化振興財団) 田中芳樹氏(小牧市教育委員会) 永井邦仁(愛知県埋蔵文化財センター)

●日時: 2024年2月10日(土)

●場所:あいち朝日遺跡ミュージアム 本館・研修室

●内容: 尾張地方の遺跡として、中世の古瀬戸窯で初めて完形の壺が出土した「扶桑北窯跡」(瀬戸市)、中世の屋敷地跡である「天王塚遺跡」(小牧市)、弥生時代から奈良時代にかけての集落跡や名古屋城の庭園跡が出土した「名城公園遺跡」(名古屋市)について、それぞれの発掘調査成果を調査担当者が報告しました。

講演会・トークセッション 「斜め上から見た\パレス・スタイル土器」 (清須市教育委員会共催事業)

●講師: 北條芳隆氏 (東海大学教授) 原田幹 (当ミュージアム学芸員) 岩渕寛氏 (愛知県陶磁美術館主任陶芸指導員)

●日時: 2024年2月25日(日)

●場所:清洲市民センター1階 ホール

●内容: 朝日遺跡出土品の中でもひときわ映える「パレス・スタイル土器」について、最新の研究成果や、天文学の観点からこれまでとは少し異なる見方を紹介することで、その魅力や不思議、奥深さに迫りました。



講座ヒストリーカフェ

「考古学の企画展のつくりかた」

●講師:田中恵美(当ミュージアム学芸員)

●日時: 2024年2月4日(日)

●場所: あいち朝日遺跡ミュージアム 本館・研修室

●内容:考古学の企画展を開催するまでの準備はどのように行われている

のか、その内幕をお話ししました。

企画展「ヤジリの考古学2024」 開催のお知らせ

会期:2024年4月27日(土)~6月23日(日)

狩りや戦いに用いられてきた弓矢に着目し、矢の先端に付けられた「ヤジリ(鏃)」を取り上げます。本館及び愛知県埋蔵文化財調査センター(弥富市)が所蔵する縄文時代から戦国時代までの出土品から、主なヤジリ(鏃)に関する資料を展示し、その変遷、技術を紹介します。また、ヤジリ(鏃)や

弓について知るための参考資料として、南

山大学の調査団がパプア ニューギニアで収集し た弓矢に関する民族 資料も展示します。



あいち朝日遺跡ミュージアムへ おでかけの方にお得なお知らせ

2施設来場でお得な「共通チケット」のごあんない

弥生時代 あいち朝日遺跡ミュージアム





	区分	一般	大学生・高校生 (学生証のご提示が必要です)
)	個人	300円	200円
	団体 (有料20名以上)	250円	150円

※学校行事(高校以下)及びその引率者、中学生以下、障がい者の方及びその付き添いの方(1名まで)は無料

- ●愛知県清須市朝日貝塚1番地
- ●TEL / 052-409-1467
- ●開館時間/9:30~17:00
- ●駐車場/15台
- ●休館日/月曜日(祝休日の場合は翌平日) 及び年末年始(12/28~1/3)



戦国時代

清洲城

※あいち朝日遺跡ミュージアムから 清洲城まで徒歩約10分





[大人] 350円

【小人】150円(小中学生) ※幼児無料

- ●愛知県清須市朝日城屋敷1-1
- ●TEL / 052-409-7330
- ●開館時間/9:00~16:30
- ●休館日/月曜日
- ※月曜日が祝日・振替休日の場合は、翌平日

あいち朝日遺跡ミュージアム **共通チケット** 清洲城 **共通チケット**

観覧券 あいち朝日遺跡 ミユージアム - 八瀬の原は、本券を受付 情報にお示したさい。 - 本井は、八田駅が南かさか - 本井は、八田駅が南かさか。 - 本井は、八田駅が南かさか。 - 本井は、「大田駅であった。 - 本井は、「大田駅であった。 - 本井は、「大田駅であった。」 - 東野県







※令和6年3月31日まで500円→令和6年4月1日から550円

古墳時代 体感!しだみ古墳群ミュージアム



展示室 入館料

[一般] 200円

大学生 高校生

300F

※中学生以下無料

- ●名古屋市守山区大字上志段味字前山1367
- ●TEL / 052-739-0520
- ●開館時間/9:00~17:00
- ●休館日/月曜日
- ※月曜日が祝日・振替休日の場合は、翌平日

あいち朝日遺跡ミュージアム 共通チケット 体感!しだみ古墳群ミュージアム 共通チケット

2施設で計500円を 1 発券より半年間有効



共通チケットは、各施設の窓口でご購入いただけます。

らいち朝日遺跡ミュージアム

■ 愛知県清須市朝日貝塚1番地 ■ TEL: 052-409-1467 ■ 駐車場 15 台













クルマ